

# 地域紛争と民族問題

氏名： 梶本 秀樹

時間数： 8 時間

学校名： 広島山陽学園山陽高等学校

実践教科： 現代社会

担当教科： 現代社会

対象学年： 1 学年

人数： 41 人

## 【実施概要】

| <b>【1】単元のテーマ・目標：</b>                          |   |  |                                 |
|---|---|--|---------------------------------|
| ・スリランカの国柄、歴史を知る。                              |   |  |                                 |
| ・これまで学習した地域紛争とスリランカの内戦の共通点を理解することで、平和について考える。 |   |  |                                 |
| <b>【2】<br/>単元の評価<br/>規準例</b>                  | (ア) 関心・意欲・態度  | スリランカと日本のつながりに関心を持ち、平和について考えようとするができる。   |                                 |
|   | (イ) 思考・判断・表現  | スリランカの内戦を通して、恒久平和の大切さについて自分の考えを持つことができる。   |                                 |
|   | (ウ) 技能  | スリランカ独立までの年表をもとにして、各種出来事から、内戦の原因を読み解くことができる。   |                                 |
|   | (エ) 知識・理解   | スリランカの内戦の原因及び、他の紛争との共通点について理解することができる。   |                                 |
| <b>【3】<br/>単元設定の理由</b>                        | “アヒンサー(不殺生)”という考え方がある仏教国スリランカにおいて、生き物と共生している具体的現状があるにも関わらず、かつて起こった内戦時には大勢の人が殺し合ったという戦争の恐ろしさを感じさせることを通して、世界平和について深く考えさせることをねらいとしている。 |  |                                 |
| ✓ 児童/生徒観                                      | 部活動に意欲的に打ち込んでいる生徒は多いが、学業に対しての意欲・関心が比較的低い。その原因として、自分たちを取り巻く恵まれた環境が当たり前と感じている生徒が多く、その結果として、学習意欲の低下にもつながっていると考えられる。                    |  |                                 |
| ✓ 教材観   | “内戦”という命のやり取りとなるテーマを教材にすることで、生徒の強い関心を引きつけ、繰り返されてきた紛争や内戦の歴史を通じて、その共通点を理解させたい。その上で学ぶ大切さに気付かせ、日々の学習意欲への向上及び、学校生活全体への高い意識改革へとつなげていきたい。  |  |                                 |
| ✓ 指導観   |   |  |                                 |
| <b>【4】展開計画（全8時間）</b>                          |   |  |                                 |
| 時   | テーマ・ねらい   | 活動・内容  | 使用教材                            |
| 1   | 「国家主権と国際法について」<br>・主権国家の成り立ちについて理解する。<br>・国際法の意義や種類、および国際司法裁判所を理解した上で、その限界や問題点を考える。   | 第二章で学習した「個人と国家」での社会契約について、ホッブズ・ロック・ルソーの三名の話をクイズ形式で思い出させ、主権国家の成り立ちに結び付ける。<br>・主権国家の成り立ちについて<br>・国際司法裁判所の意義と種類について | ・教科書<br>・ワークシート<br>・Power Point |

|         |  |   |   |
|---------|--|---|---|
| 2       | <p>「国際連合の役割と課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勢力均衡と集団安全保障の相違点を具体的に理解させる。</li> <li>・ 国際平和を実現させる上での、国連の役割の重要性を理解させる</li> </ul>                    | <p>学校という環境を世界に置き換え、それぞれのクラスを国として考えて、勢力均衡と集団安全保障について具体的に考察させる。(ペアワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際連合の役割と課題について</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ Power Point</li> </ul>                |
| 3       | <p>「第二次世界大戦後の国際社会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米ソの東西両陣営の対立構造を理解するとともに、冷戦がもたらした代理戦争について理解させる。</li> </ul>                                       | <p>資本主義、社会主義を理解し、世界の国々はどちらの主義であるのかクイズ形式で考えさせる。(ペアワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東西両陣営の構造について</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ Power Point</li> </ul>                |
| 4       | <p>「冷戦終結後の国際社会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷戦終結後の国際社会の構造変化について理解させる。</li> <li>・ 今日まで続いているテロ事件についての原因を考察させる。</li> </ul>                       | <p>ソ連崩壊の原因を、社会主義の限界と関連付けられるように、画像を見せながら考えさせる。</p> <p>アメリカ同時多発テロの内容を具体例に取り上げて、テロがなぜ起きるのか考察させる。(ペアワーク)</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ Power Point</li> </ul>                |
| 5       | <p>「核兵器の廃絶と国際社会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 核開発の背景に、冷戦時の軍拡競争があったことを理解させる。</li> <li>・ 核廃絶の難しさと同時に、国家間のみならず、市民の根強い運動が求められることを理解させる。</li> </ul> | <p>世界の核保有国の資料をもとに、常任理事国との関連性を読み取らせ、核武装論の是非を、被爆地広島県人として、意見を発表させる。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ Power Point</li> </ul>                |
| 6       | <p>「地域紛争と人種・民族問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地域紛争にはどのようなものがあるか理解させる。</li> <li>・ 地域紛争の要因を理解し、解決のために求められることを考察する。</li> </ul>                  | <p>プリント学習後、各種映画を鑑賞し、感想を交流し合う。</p> <p>紛争の要因は、民族対立、宗教対立、歴史的対立にポイントを絞り、それぞれの共通点を考えさせる。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ Power Point</li> <li>・ ビデオ</li> </ul> |
| 7<br>本時 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スリランカの国柄、歴史を知る。</li> <li>・ これまで学習した地域紛争とスリランカの内戦の共通点を理解することで、平和について考える。</li> </ul>                                    | <p>グループ学習でのクイズを行い、スリランカの基礎知識を学習し、その上で共生を実現しているスリランカが、かつて内戦を起こした原因について意見交流させる。</p> <p>「戦争のない世界」「平和のためにできること」についてグループ単位でディスカッションし、考えをホワイトボードにまとめて発表させる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Power Point</li> <li>・ ホワイトボード<br/>(グループに一つずつ)</li> </ul>              |
| 8       | <p>「国境と領土問題」</p> <p>日本の役割と私たちの生き方</p>  | <p>時事問題を取り上げ、グループディスカッションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北朝鮮問題</li> <li>・ パレスティナ問題</li> </ul> <p>前時につなぐ考察を、グループで行う。</p>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>                                       |

| 【5】本時の展開     |  |   |        |
|--------------|--|---|--------|
| 過程<br>時間     | 学習活動   | 指導上の留意点（支援）   | 資料（教材） |
| 導入<br>(10分)  | スリランカの基礎情報と国民性を学ぶ。<br>○スリランカの基礎情報を、Q&Aのクイズ形式で班ごとに競争する。7グループの班をつくる（6名×6、5名×1）                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に関心のあるテーマを取り上げ、クイズ形式にすることで、興味関心を高めさせる。</li> <li>・グループにすることで、幅広い考えや意見を出しやすくさせ、より深い関心を持たせるよう促す。</li> </ul>                      |        |
| 展開1<br>(15分) | スリランカの内戦に至るまでの経緯と内容を理解する。<br>○スリランカ内戦勃発までの歴史を参考にして、これまで学習してきた地域紛争との関連性を探りながら、スリランカ内戦の原因を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・要因となったキーワードを引き出し、これまでの学習とスリランカ内戦との共通点に気付かせる。</li> <li>・スリランカの国民性と反する戦争との比較を通じて、戦争の恐ろしさを理解させる。</li> </ul>                        |        |
| 展開2<br>(15分) | 戦争のない世界を築くために求められるもの、平和に何が必要なのか考えさせる<br>○グループでディスカッションする<br>○日々の日常生活に目を向け、今できることを考える。        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んできた学習を関連付けて、考察させる。</li> <li>・世界平和という大きなテーマから、日々の日常での生活に意識を向けさせ、今できることを考えさせる。</li> </ul>                                   |        |
| まとめ<br>(5分)  | 恒久平和に必要な考え方をまとめる。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先人の言葉（ジャヤワルダナ氏のエピソード・ネルソンマンデラの言葉）を知ることで、平和に必要な考え方について理解を深めさせる。</li> <li>・教育の重要性を理解し、日々の学習こそ、世界平和の大きな力になるということに気付かせる。</li> </ul> |        |

【授業実践の様子】

○スリランカの基礎知識を、班ごとに協力し合いながら、クイズ形式で学ぶ。

**【スリランカ基礎情報】**  
 首都:スリジャヤワルダナプラコッテ  
 光り輝く 人名 町の名前  
 人口:2120万人  
 56位 東京都+神奈川県 約2300万人  
 北朝鮮 約2500万人  
 面積:6万5610km<sup>2</sup>  
 122位 ※日本の約1/6

スリランカ基礎情報①

**Q1 スリランカの場所はどこ？**

答え ④

スリランカクイズ①

○普段飲んでいる紅茶が、実はスリランカ産の紅茶であった。まったく縁がないと思っていたスリランカと日本が、実は近いところでつながっていたことを実感できる話のひとつであった。

**Q2 スリランカと関係あるものはどれでしょう？**

①午後の紅茶 ②ミニオン  
 ③パプーシュ ④プガッティヴィロン

スリランカクイズ②

スリランカ基礎情報②

○生徒には、スリランカはカレーのイメージがないことがわかったクイズ。②と③答えが多かった。

**Q3 スリランカの食事は？**

①フォー(ヌードル) ②ナンゴレン  
 ③ガバオ(鳥のバジル炒め) ④種類豊富なカレー

スリランカクイズ③

豆カレー、ポテトカレー、チキンカレー、フィッシュカレーなどなど

スリランカ基礎情報③

○朝・昼・晩すべてカレーが食卓に並ぶということ、種類の豊富さに驚く生徒。同時に、熱帯地域の気候が、腐りにくい食べ物の発展につながっているという気候と食とのつながりにも気付かせることができた。

ジャガイモ  
 インゲン  
 ドラムスティック  
 チキン  
 うまいっ

スリランカ基礎情報④

ここからの2つのクイズは、スリランカが仏教国であり、生き物と共生していることが、強く感じられる内容のものにしてある。

○1つ目は、シーギリヤロック付近で、私が白アリの巣を壊して遊んでいると、地元の青年たちに、注意を受けた出来事。

**Q4 白アリの巣を壊したら、何が起きたか？**

|                                   |                                |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1<br>周りにいた子供たちも、真似をして白アリの巣を壊し出した。 | 2<br>サルがやってきて、ものすごい勢いで白アリを食べた。 |
| 3<br>現地記者に、可憐な姿を写すなど、怒られた。        | 4<br>罰が当たり、頭に鳥の糞が落ちてきてきた。      |

スリランカクイズ④



スリランカ基礎情報⑤ (シロアリのアリ塚)

○2つ目は、障害者支援施設の子どもたちにプレゼントしたおもちゃの昆虫に、子供たちが怖がった出来事。

**Q5 おもちゃの昆虫を渡したらどうなった？**

|                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1<br>怖がった<br>       | 2<br>大喜びした<br> |
| 3<br>あっという間に殺した<br> | 4<br>食べた<br>   |

スリランカクイズ⑤



スリランカの子供達が怖がった昆虫のおもちゃ

○近くに近寄っても逃げようとしないトカゲや、人通りの多い場所でも駆除されないスズメバチの巣があることは日本では考えられない。この写真を通して、生き物と共生するスリランカの様子が理解できた。



人間を怖がらないトカゲ



人間を怖がらないトカゲ②



駆除されないスズメバチの巣

○命を尊ぶ仏教国であることの確認

生き物と人間が対等に生きる国

仏教国 スリランカ  
不殺生(アヒンサー)

スリランカ基礎情報⑥⑦

○このような虫とすら共生する(命を大切にする)スリランカで、なぜ同じ人間が殺し合うという内戦が起こってしまったのか。大きなギャップを感じさせることで、戦争の起こった原因について考えさせる。

内戦勃発  
1983年～2009年

26年間の内戦終結までに…  
7万人以上が死亡



内戦資料①② (犠牲者数)

○グループごとに、下記の発問に対して、右のスリランカの歴史を参考にしながら原因を考えさせる。これまで地域紛争等で学習してきたことと関連付けて、内戦の原因をたどる。

Q6なぜ、内戦が起こってしまったのか？

#### スリランカの歩み その1

- BC5世紀 シンハラ人が移住し、王国をつくる
- BC3世紀 上座部仏教が伝来する
- BC2世紀 タミル人移民
- 1505年 ポルトガルによる支配
- 1638年 オランダによる支配
- 1815年 イギリスによる全島支配  
南インドから労働者としてタミル人を移民させる
- 1948年 セイロンとして独立
- 1958年 対立激化

スリランカ基礎情報⑧

※グループごとに考えを発表させ、意見交流を行う。その後下記の順で内戦の原因を確認する。

民族対立

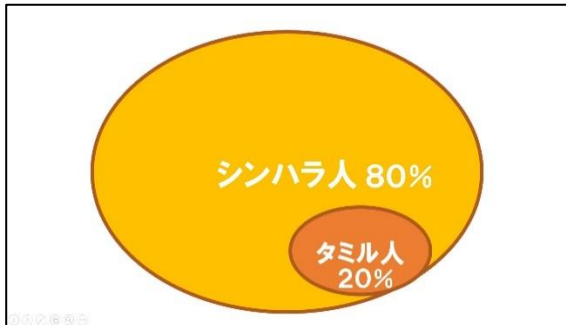


スリランカ基礎情報⑨ (2つの民族について)

○二つの民族の対立。シンハラ人とタミル人について。右の写真から肌の違い、外見的違いに気付かせる。また、言語の違いあること、およびタミル人とシンハラ人の人口割合について説明する。



スリランカ基礎情報⑩ (2つの民族について)



スリランカ基礎情報⑪ (2つの民族の割合)

○シンハラ人は仏教、タミル人はヒンドゥー教。

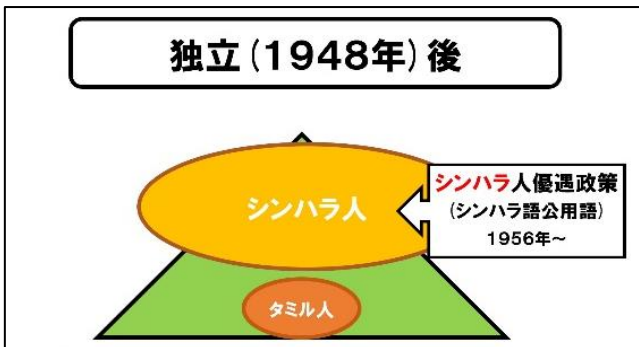
## 宗教対立



スリランカ基礎情報⑫ (2つの民族の宗教について)

○イギリスが行った分割統治政策も大きな内戦要因の一つになっていることを説明する。植民地政策によって引き起こされてきた、民族対立について思い出させる。※ルワンダ内戦等…

## 歴史的対立



スリランカ基礎情報⑬⑭ (2つの民族の歴史的対立について)

○グループごとに問いに対する考えをホワイトボードにまとめて発表する。

**Q7 どうすれば、戦争のない世界をつくれるのか？**

**Q8 平和のために、今の自分が  
できる事とはなんだろう？**

Q7に関しては、あまりにも大きな議題のため、抽象的回答が多かった。Q8に関しては、日常生活の中での道徳的な身近な周りでの話を絡めた意見が出た。

○まとめでは、先人の言葉を用いて、音楽付きでスライドを見せる。

**愚者は経験から学び、  
賢者は歴史から学ぶ**

**同じ過ちを繰り返さない**

**学ぶ**

先人の言葉（オットー・ビスマルク）

本時の学習のキーワード①②

○ジャヤワルダナ氏が、サンフランシスコ平和条約締結の際の会議で話した内容。日本に対するすべての賠償請求を棄権し、その理由を下記の内容で答えた。

それと同時に、過去に学習したマンデラ大統領に言葉からも引用した。



スリランカ基礎情報⑮（ジャヤワルダナ氏）

ジャヤワルダナは、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴え、同時に、セイロンは対日賠償請求権を放棄した。



スリランカ基礎情報⑯  
（ジャヤワルダナ氏のスピーチ）

**「憎しみは憎しみによっては止まず、  
ただ愛によってのみ止む」**

スリランカ基礎情報⑰  
（ジャヤワルダナ氏のスピーチ内容）



**教育とは、世界を変えるために用いることができる、最も強力な武器である**

マンデラ大統領の言葉



○学ぶ大切さにつなげることで、日々の学習意欲向上に転換を促す。



本時のまとめ①②③④



ジャヤワルダナ氏が希望を抱いた未来に君達は生きています。私たちの一人一人の力で、平和な社会を築いていきましょう…

生徒へのメッセージ

### 【6】本時の振り返り

学習意欲があまり高くない傾向がみられる本校生徒にとって、いかに授業に興味関心を持たせるかが大きなテーマであったことと、“戦争をなくすために、何が求められるか”という、大変難しい問いかけであったこともあり、授業がうまくいくかという不安があった。

しかし、思いのほか、授業導入のクイズから、意欲的に発言が飛び交い、スリランカという国に対しておおいに関心を持たせることができた。また、本時のめあてである、世界平和について考える場面では、グループの仲間と意見を出し合いながら、自分達なりの答えを導き出すことができていた。

その要因としては、まず ICT を活用した視覚的に訴える授業構成であったことや、普段の授業の形態とは違い、班ごとのグループ活動を行ったことで、自分の意見を出しやすくなったことも挙げられる。このクラスでは、初めてのグループ活動であったが、普段以上に、互いに意見を交流するなどの意欲的な態度が見られたので、グループ活動の有効性が、あらためて感じられた。

しかし、先進国という恵まれた環境で生まれ育った生徒において、戦争や死というものに対して、実感の伴った意見が出るにはいたらなかった。

だからこそ、教科書の内容の知識伝達で終わるのでなく、異国の文化や考え方に触れさせるとともに、仲間との協働的な活動を通して、主体的で深い学びができるようにしていきたい。

### 【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

授業後に、校内の自動販売機に行き、紅茶の飲料水を購入し買って持ってきた生徒が複数いた。「先生、本当にスリランカの紅茶なんじゃね！」と、普段授業に積極的でない生徒が、嬉しそうに話しかけてきた。その後も、スリランカの料理の話等、興味を示し、カレーの話や料理の話をしてきた。

ガスの無い、かまどでの調理の話では、かつての日本もそうであったことを話すと、自分たちがいかに恵まれた環境で育ってきたかを実感できたようであった。

まったく関わりがない異国の地と思われていた国が、自分たちの身近にある物とつながっていることに気付かせることで、生徒の関心を高めるきっかけになることが改めて分かった。

|  |
|--|
| <p><b>【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】</b></p> <p>グループ学習を通し、普段積極的に発言する機会の少なかった生徒が、教師の発問に対して反応を示すようになった。また、これまで行ってきたペアワークにおいて、今まで以上に活発な意見交換が行えるようになった。</p> <p>さらに、今回のような、明確な答えが定まってない問題を考え、意見を出し合うことによって、相手の意見を傾聴することの大切さも学べていた。実際に、他者の発言に体をしっかりと向けて真剣に聞く生徒が増えた。</p>               |
| <p><b>【途上国・異文化への意識の変容について】</b></p> <p>&lt;授業前&gt;</p> <p>国際情勢のニュースへの関心度が低く、授業開始時に行っている時事問題のクイズでは、「聞いたことがない」という生徒が多く、その国や地域の基礎情報から説明に入ることが多かった。</p> <p>&lt;授業後&gt;</p> <p>世界情勢に関するニュースに興味関心を持つ生徒が増えただけでなく、事前にクイズで聞かれるであろう内容(パレスティナ問題・ロヒンギャの難民問題など)について、学習してくる生徒もいた。</p> |

|                        |   |
|------------------------|---|
| <p><b>【8】 自己評価</b></p> |   |
| <p>1. 苦勞した点</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段からグループ学習等をあまり行っていないために、グループ活動をさせた際に、特定の生徒の発言に偏りが生じる可能性があったため、グループごとにホワイトボードを用意し、互いの考えを書き込みながら意見が交流できるよう配慮した。</li> <li>・ “戦争のない世界” という漠然とした議題を、日々の生活での取り組みにつなげることは大変難しいと予測されたため、過去の感動する史実(ジャヤワルダナ氏)を引用し、BGM等を効果的に利用することで、生徒の心情に訴えかけるよう工夫した。</li> <li>・ 共生という概念を少しでも理解させるために、自己の失敗談や体験を動画と画像を使って効果的に提示した。</li> </ul> |
| <p>2. 改善点</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦争や人の死を身近に感じられない日本の高校生にとって、平和について親身になって考えさせるためには、ベースとなる深い予備知識が今以上に求められる。</li> <li>・ 平和教育や総合学習を通じての横断的な学びで深めさせていく必要がある。</li> <li>・ 本校は、二年次より日本史がスタートするため、近現代史を学ぶ中で、戦争のメカニズムについて理解を深めさせたい。</li> </ul>  |
| <p>3. 成果が出た点</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の生活の飲食に関わりのある紅茶が、スリランカと深く結びついていたことに気付かせることで、スリランカへの親しみと関心はより一層高まった。</li> <li>・ グループ活動を行うことによって、グループごとでの連帯感が深まり、その勢いで後半の本題である発問に対しても、活発な意見交流が出来ていた。</li> <li>・ スリランカ内戦の要因を考察する際、生徒から「少数派」、「植民地支配」といったキーワードが多く出ていたことから、日頃の授業で時事問題として取り上げてきたパレスティナ問題や、ロヒンギャの難民問題などが思考の一助になっていた。</li> </ul>                            |

|          |  |
|----------|--|
| 4. 備考・所感 | <p>私は、本校の大きなひとつの課題である、学習に対しての意欲・関心の向上をはかるために、年に数回程度海外に行き、生徒たちにその国の情報を写真や映像で伝えるようにしてきた。その中でも、開発途上国を中心とした国を紹介し、日本と比較することで、日本という国の豊かさ、そして日々の日常のありがたさを生徒に感じさせるよう心掛けてきたが、個人旅行で得られる情報には制限があり、求める情報が得られないことも多くあり悩んでいた。</p> <p>そうした中で、今回の教員研修プログラムは、まさにその私の願いを叶えられる研修であった。この研修を通じて、国外で活躍されている日本人の貴重な意見や、またその現場の視察、さらには、個人旅行では、得られない貴重な体験を数多くさせてもらうことができた。また、個人でなく、同じ志をもった仲間と共に研修を受けたことで得られた新たな気付きや学びがたくさんあった。</p> <p>この研修に参加させて頂けたことに深く感謝している。</p> |
|----------|--|

【参考資料】

- ・高等学校改訂版 新現代社会（第一学習社）
- ・「地球の歩き方 スリランカ」（ダイヤモンド社）
- ・「致知 2016 年 9 月号『恩を知り恩に報いる』（致知出版社）
- ・「日本人の知らない日本がある ころに残る現代史」白駒妃登美（角川書店）